
子ども工作教室

～環境、省エネの話とLEDのペットぼたる作り～

〈東北コミュニティセンター〉

- 開設の趣旨 地球環境と省エネに対する意識を高める。
LED（発光ダイオード）の光る仕組みを知り、LEDを使った工作（ペットぼたる作り）に取り組む。
- 期 間 平成28年8月23日（金）
- 時 間 午前10時～正午（計2時間）
- 対象・定員 市内の小学4～6年生・20人
- 参加者 20人
- 講師 サンケン電気（株）職員
- 事業内容 地域にある企業の協力を得て、LED（発光ダイオード）を使用した工作「ペットぼたる」を作成する。
合わせて、地球環境と省エネについての話を聞き、意識を高める。

○ま と め

広報紙とHPに加えて、近隣2小学校の対象学年約700名に夏休み前にちらしを配布しておいた。

サンケン電気は、企業と技術の紹介事業の一環として、LED（発光ダイオード）工作教室の企画運営をシステム化しており、準備から当日まで大変協力的に手際よく取り組んでもらえた。完成品は、地域企業の協力と講座内容の紹介を兼ねてロビーに4日間展示し、その後参加者に引き取ってもらった。

講座は、前半がパワーポイントによる講義、後半が工作の構成だった。前半の地球環境と省エネの説明は、子どもの理解度や時間配分を見極めながら進めていた。工作が始まると、賑やかだった子どもたちが静かになり、集中して部品の組み立てや、オリジナルの絵を描くのに夢中になる姿が印象的だった。組み立てる順番に一つずつ部品を配布してもらい、子どもは好きな色のLED電球を選んでペットぼたるを完成していった。自分の作品に愛着を感じるようで、その日に持ち帰ろうとした子もいるほどだった。

工作だけでなく、地球環境と省エネ、LEDが光る仕組みも学習する機会となった。

子ども絵画教室 ～絵を描きたい子、集まれ！～

〈東北コミュニティセンター〉

- 開設の趣旨 絵を描く楽しさを味わう機会を提供する。
- 期 間 平成28年11月19日(土)
- 時 間 午前10時～正午 (計2時間)
- 対象・定員 市内の小学生・20人
- 参加者 16人
- 講師 絵画教室教師 森 千恵子
- 事業内容 想像した車や木を、水彩絵の具を始めさまざまな画材で描くことを通して楽しく絵を描く。

○ま と め

事業計画では、「冬のお楽しみ会」として位置づけられていたが、例年定員確保に難しさがあるとのことで内容を変更して実施した。

近隣2校の小学校の協力を得て在校生の家庭にちらしを配布した所、即反応があり定員に達したが、当日は兄弟が2組体調不良で欠席となった。

講座は参考作品を鑑賞後、想像した事物を描いていった。当初は、単純な車や木を描く中で独創性を表現していく予定だったが、子どもたちの反応が良く、描画に対する意欲も高いことから、自由画を描くことになった。持参の水彩絵の具だけでなく、色鉛筆、クレヨン、マジックなども使って、子どもたちは描きたい事物を決めると、どんどん描き進めていった。長く伸ばした片足で山頂を踏む構図、家族団らんの様子、海中の魚たち、画面いっぱいの虫など個性あふれる絵を次々と描いていった。夢中になって描き、絵を描くことだけを楽しむひとときを過ごした。最後の鑑賞会では、講師から一人ずつ良いところを褒められて作品を渡され、自信と喜びにあふれた表情がみえた。

森講師は、画用紙や画材を提供してくださり、優しい雰囲気の中で安心して描画に取り組める環境を整えてくださった。

絵の具と水の汚れが残るので、講座終了後、机と床の拭き掃除が必要であった。

親子陶芸教室 ～世界に1枚だけのお皿を作ろう～

〈東北コミュニティセンター〉

- 開設の趣旨 独創的なお皿を作る活動を通して陶芸に親しみ、親子のふれあいの場を設ける。
- 期 間 平成28年12月10日(土)
- 時 間 午前10時～正午 (計2時間)
- 対象・定員 市内の小学生と保護者12組
- 参加費 粘土代(1g1円)当日計量し集金。鶏分は講師より提供。
- 参加者 12組28人(保護者12人、子ども16人)
- 講師 陶芸工房主宰 佐原朋子
- 事業内容 皿の成形、装飾。干支の鶏作り。
- まとめ

保護者2名に子ども2名を2組として応募したケースや、保護者1名に子ども3名のケースがあった。応募家族数多数の場合や、作業台を2家族で使うスペースの都合から、応募条件を事前に検討し、対応に備えておくとよい。

講座は、皿の成形、装飾を完成させた後は、時間調整も兼ねて来年度の干支の鶏作りに取り組んだ。

子どもは感触を味わうために粘土の塊をたたいて伸ばし、大人はたたき板(平らに伸ばし広げた粘土板)を、紙製や素焼きの型に乗せて成形した。装飾の仕方は、①色粘土を好きな形にして本体に埋め込む、②色粘土をつけた筆で模様を描く、③スタンプのような押印を押しつけて模様をつける等の方法で行った。

皿からはみ出したパンダの耳を切らずに残した皿、縁に点描した穴の一つ一つに色粘土を埋め込んで花模様にした皿、家族全員の顔を色粘土で貼り付けた皿、中心から放射状に花びらを描いた皿など、見本や説明にない独創的な作品の数々が完成した。鶏作りでも羽の形や向きを工夫した作品が多く、親子でふれ合いながら楽しく参加してもらえた。

講師は学童保育所や他館、本館(3回目)での指導の実績があり、分かりやすい説明、使いやすい道具の配置、打ち合わせ日の設定のタイミング等協力的に準備に当たってもらえた。講師提供のテーブルクロスにより掃除が軽減された。仕上げと焼成を経て1週間後に作品引き渡しとなった。

ケーブルテレビJ:COMの取材があり、3日後に放送された。

子育てラクラク講座

＜東北コミュニティセンター＞

- 開設の趣旨
 - ・ 幼児期の子育てに役立つ知識や技術を学習する。
 - ・ 保護者が心身共にリフレッシュし、今後の子育てにゆとりを持って向き合えるようにする。
 - ・ 親子それぞれの仲間作りのきっかけとなる場を提供する。
- 期 間 平成28年9月30日～10月28日までの毎週金曜日
(計5回)
- 時 間 午前10時～正午 (計10時間)
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・20人
- 参加者 13組(保育無し1人) 参加延べ人数 45人
- 保 育 13人(双子1組)
- 事業内容

回	月 日	内 容	講 師
1	9/30(金)	絵本の読み聞かせと選び方	中央図書館 上野邦晴 木下智美
2	10/7(金)	子どもとの生活の整え方	婦人之友友の会 会員
3	10/14(金)	子どもの病気と怪我の手当	日赤幼児安全法指導員 佐藤紀子
4	10/21(金)	タイ式ヨガでリフレッシュ	日本ルーシーダットン普及連盟 認定講師 高橋優子
5	10/28(金)	入学までにつけたい力	埼玉県家庭教育アドバイザー 持田久代

○ま と め

7月下旬からちらし配布を開始したが、定員に達しなかった。受講者集めには苦労はあるが、受講者は参加すれば講座の内容には満足していることがアンケートからわかる。

絵本のよさや、読む時に大切にすることがわかったうえでの読み聞かせでは、子どもの目の輝きに納得がいった。生活リズムを整える工夫や病気、怪我の応急処置は、すぐに実生活に生かせるものだった。ヨガはリラックスできたと好評だった。意見交換が子育ての悩みや心の持ち方に参考になった。

保育サポーターには、毎回工夫を凝らし熱心に取り組んでもらえ、泣いていた子が回を重ねるにしたがって馴染んでいった。

おしゃれ講座 ～リンパマッサージと上品メイク～

〈東北コミュニティセンター〉

- 開設の趣旨 マッサージの仕方とメイクのコツを学び、心身ともにリフレッシュする。
- 期 間 平成28年7月15日・22日の金曜日（計2回）
- 時 間 午前10時～正午（計4時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・16人
- 参加者 16人 参加延べ人数 25人
- 講師 ビューティーアドバイザー 柴崎 明美
- 保育 6人（男4人、女2人）
- 事業内容

回	月 日	内 容
1	7月15日（金）	メイク落としとリンパマッサージ
2	7月22日（金）	化粧下地とメイクアップ

○ま と め

受付開始後22分で定員に達した後も応募が続き、キャンセル分もすぐに補充した人気講座だった。また、受講者の年齢が30代から70代と幅が広く、何歳になっても美容に関心をもつ前向きな姿勢が感じられた。

1回目はメイク落としとリンパマッサージの方法を学んだ。早速、1週間続けて実践し2回目を迎えた受講者が、肌の調子がよくなり色白になって、努力と効果を全員で認め、喜び合う場面があった。

2回目は自分の肌の色を知ることを選び、それによって、ファンデーションの正しい選び方を知ることができた。その上でメイクアップの方法も学んだ。眉の書き方のコツなどについてさかんに質問が出た。

講師が開講直後、受講者に受講の動機を含めて自己紹介してもらったことが、和気あいあいとした雰囲気を作ることに一役買っていた。講師からテキストブックの提供があった。

保育付きなので参加しやすいという声があり、アンケートの結果も大変好評で、充実した講座だった。

苔玉教室 ～季節にあった植物でこけだまづくり～

〈東北コミュニティセンター〉

- 開設の趣旨 季節にあった植物を使った癒やしの苔玉づくりを学び、愛着を持って家庭での鑑賞、そして手入れを楽しんでもらう
- 期 間 平成28年11月18日（金）
- 時 間 午前10時～11時30分（計1.5時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・20人
- 参加者 20人
- 講師 花育アドバイザー 石戸 明一
- 事業内容 盆栽で用いられる「根洗い」という鉢の中に根を隙間なく張らせる手法を応用し、鉢の代わりに苔を巻き付けてつくられる苔玉について、作成方法、屋内での鑑賞及びそのための屋外での手入れ方法などを学び、切り花とは異なる自らつくって育てる生きた鑑賞用植物により、生活の中に癒やし感を生ませる。

○ま と め

昨年のハンギングバスケットに続く園芸講座として行った「苔玉教室」は、非常に人気が高く、講師の好意により当初定員15名から20名に拡大して実施することとなった。

材料、道具、エプロンなど必要なもの全てが講師において用意され、受講者は同一条件での作業となったことから、講師の説明が一際共通認識となって伝わっていた。

全員が同じ種類の材料（クロマツ、ハクリュウ）からの作成であったが、「盆栽の到達点はその形状における個人のセンスである。」との講師の言葉どおり、受講者それぞれ個性的な苔玉を完成させ、各自満足していた。

講師の説明は、冒頭の苔玉、盆栽の基礎知識から始まり、使用する植物や土、苔玉作成作業、苔玉の日常の管理方法という構成であった。また、様々な種類の植物を使用した苔玉の説明もあったが、実際の作品の展示があったため、一層受講者の興味を引いていた。

文学講座

〈東北コミュニティセンター〉

- 開設の趣旨 芥川龍之介の短編小説「蜘蛛の糸」、「蜜柑」、「トロッコ」を読み解く
- 期 間 平成28年8月19日～9月2日までの毎週金曜日（計3回）
- 時 間 午前10時～正午（計6時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・30人
- 参加者 30人 参加延べ人数 75人
- 講師 大妻女子大学教授 須田 喜代次
- 事業内容

回	月 日	内 容	講 師
1	8月19日（金）	「蜘蛛の糸」	大妻女子大学教授 須田 喜代次
2	8月26日（金）	「蜜柑」	
3	9月 2日（金）	「トロッコ」	

○ま と め

昨年まで数年に渡り、夏目漱石の作品鑑賞をしてきたので、今回は誰の作品にするか、昨年の中から講師と検討した。昨年が漱石の「ころ」を扱い、作品の長さから講座の時間内で講義が収まらなかったことの反省から、今回は芥川龍之介の短編小説を1回の講義で読み切り、3作品を学ぶことにした。1回目の講義では、作品に触れる前に芥川の経歴、当時の世相、そこから芥川が受けた影響等を講師が解説してくれた。また芥川作品には、もとになる物語を芥川なりにアレンジして作品を書くというものが数多くあることも知った。蜘蛛の糸はまさしくそのスタイルである。2回目の蜜柑は作者が横須賀で英語教師をしている時利用した、横須賀線の中でのできごととして書いたものである。3回目のトロッコもモデルとした基の話はなく、芥川が一から書き起こした作品である。大正から昭和に変わるこの時期、芥川や多くの作家が漠然とした不安に襲われていた時代で、暗い世相が作品に大きな影響を与えたそうである。今回も須田講師の講座が大好評であり、今後も扱う作品を変えて、講座を続けたいと感じた。

大人のための日本語講座 ～改まった場での言葉遣い・正しい言葉の使い方～

〈東北コミュニティセンター〉

- 開設の趣旨 知っているつもりでも、間違いやすい漢字、四字熟語、敬語など、改まった場での言葉の使い方について学習する。
- 期 間 平成28年7月1日・8日の金曜日（計2回）
- 時 間 午前10時～正午（計4時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・20人
- 参加者 20人 参加延べ人数 37人
- 講師 日本語検定委員会公認講師 新島 尚子
- 保育 1人（男0人、女1人）
- 事業内容

回	月 日	内 容
1	7月1日（金）	尊敬語と謙譲語、巷で見かけた気になる言葉など
2	7月8日（金）	敬語腕試し、前置き（クッション）言葉、可能表現、受け身表現、使役表現、質疑応答

○ま と め

昨年度好評につき開講した人気講座で、受付開始後1時間足らずで定員に達し、キャンセル待ちも出た。昨年からの連続参加者が4人いたが、講師は内容が重複しないように考慮してくれた。

講座では、尊敬語と謙譲語の違いと使い方、後に続く言葉を予想させる前置き（クッション）言葉の説明、町中やテレビ放送での間違った言葉遣いの紹介、可能・受け身・使役表現の説明と使い方など多岐に渡って、改まった場での正しい言葉遣いを確認していった。

「申し上げにくいのですが」「おかげさまで」などのクッション言葉は、前置きに付けることでコミュニケーションを円滑にする役割があるという。正しい言葉遣いを知り、使いこなせることはそれだけでも大人として魅力的だが、人との関わりの上でより良い人間関係を築けるものであることに気づかされた。

講義の速度を速く感じる人から、よく理解できた人まで幅広く参加していたが、受講者は手応えを感じていたようで、特に練習問題は、興味深く熱心に取り組んでいた。質問も活発に的確に出て、日本語の使い方についての意識の高さがうかがえた。この講座を通してさらに日本語を考えるきっかけになったと思われる。

シニアのためのタブレット基礎講座



< 東北コミュニティセンター >

- 開設の趣旨 近年、タブレットの普及が目覚ましい。高齢者にはパソコンよりもキーを打たなくて済むタブレットが手軽であるといわれていることからシニア世代を対象にタブレットがどのようなものであるかを知ってもらい、今後利用するかを判断する機会を提供する。
- 期 間 平成29年1月13日（金）
- 時 間 午前10時～正午 （計2時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤でタブレットをこれから利用予定の50歳以上の方・20人
- 参加者 20人
- 講師 KDDI 認定講師 三島 将生 山形 豊
- 事業内容 これからタブレットを利用しようとするシニア世代に基本操作を伝授し、タブレットがどのようなものかを理解してもらう。
- ま と め

本館としては2回目のタブレット講座である。昨年はずでにタブレット端末機を持っているが、使い方がわからないという人を対象としたが、今回はタブレット購入を検討している人を対象にしたコースの講座を実施した。タブレットを全く使ったことがない人がかなりいて、基本的な操作から教えなければならなかった。参加者によりレベルがまちまちなので、講座進行に苦労した。

受付初日開始早々申込み電話が殺到し、約45分で定員に達してしまった。KDDIの社会貢献事業であり、講師が機材とレジュメを用意してくれた。

旅わざ ～賢い渡航の豆知識～

＜東北コミュニティセンター＞

- 開設の趣旨 海外旅行が盛んになった今日、ツアー旅行から個人旅行まで形態は多様である。自分だけのオリジナル旅行にスポットをあて、様々なノウハウを紐解く。
- 期 間 平成29年2月17日（金）
- 時 間 午前10時～正午 （計2時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・25人
- 参加者 18人
- 講師 トラベルライター 大和田聡子



- 事業内容 海外旅行での様々なノウハウ（ホテルやフライト予約、身の守り方等、現地ツアーの利用方法）を紹介しながらオリジナルの旅をする時の心得を学ぶ。

○ま と め

定着しつつある東北コミセンの旅行講座シリーズの位置づけで今年も海外旅行を取り扱う講座を実施した。

今回は自分オリジナルの旅を作るためのノウハウを習得するための講座を考えた。

まず、個人旅行やツアーのそれぞれの利点、ホテルやツアーの選び方から入り、荷作り、両替、安全情報の取り方に進んだ。また、現地での交通手段は何かが良いか、どのようなことに注意して観光したら良いかも併せて学んだ。

受講生は大変熱心で、どうしたら良い旅行ができるかをノートにとりながら講師の話を聞いていた。

ツアー、個人旅行、それぞれ長所、短所があり、両者をうまく組み合わせながら、海外旅行の基本術を駆使して旅するのがベストである。

旅の英会話（初級～中級）

〈東北コミュニティセンター〉

○開設の趣旨 旅行で使う英会話の学習を通して、楽しく英語に触れる機会を提供する。

○期 間 平成28年10月6日～20日までの毎週木曜日（計3回）

○時 間 午後1時～3時（計6時間）

○対象・定員 市内在住又は在勤の方 20人

○参加者 20人 参加延べ人数 54人

○保 育 希望者無し

○講 師 英会話サークル講師 Jim Turcotte（ジム ターコット）

○事業内容

回	月 日	内 容
1	10月 6日(木)	自己紹介 空港での会話（搭乗手続き、入国審査、税関審査、税関申告書の書き方など）
2	10月13日(木)	空港での会話の復習 機内での会話
3	10月20日(木)	病院での会話

○ま と め

受付初日で定員を超え、その後も多くの申込があり、英会話の人気の高さを痛感した。

講座は、ペアになったの会話練習や、講師を相手とするロールプレイもあり、たくさん話す機会があった。実際に海外旅行に出かけるときのシミュレーションのようで楽しめていた。

講師は、1回目の自己紹介で受講者個々の英会話力を見極めていた。気さくで明るく熱心な人柄で、分かりやすい英語を話し、受講者を引きつけながら進行していった。英語のみのスピーディな進行で、知的好奇心が刺激され充実感のある講座だった。しかし、英会話の体験に幅のある層が集まるので、アンケートによると全部聴き取れないものの「楽しかった。」と感じる層と、聴き取れないので「難しかった。」と感じる層も一部あったが、ほとんどの受講者が「とても満足」「満足」と感じていた。

募集に際しては、「初級～中級」としたが、対象の層が明確にわかる表記をした方が、同じレベル同士でさらに楽しめると思う。

人 権 を 考 え る

セ ン タ ー > ○開設の趣旨 利用者懇談会の中で人権について学習する。

○期 間 平成28年11月12日(土)

○時 間 午前9時30分～午前10時(計 0.5時間)

○対 象 当館利用者団体代表・78人

○参 加 者 40人

○事業内容 人権啓発推進ビデオ「あなたがあなたらしく生きるために 性的マイノリティと人権」の上映

性的マイノリティについての映画で、2つのストーリーを盛り込み、それについての解説をするというビデオである。

第1話

ドラマ『トランスジェンダーの中学生』

主人公の中学2年生の少女は、周囲からボーイッシュな女の子とからかわれている。心の性は男性である。自分が心と体が異なっていると認識する苦しみを親友や教師にも相談できず、悩み続ける。担任教諭や養護教諭もそれに気づくが、解決策が見つからない。親友は少女の悩みが何であるかはわからないが、悩みがあるならばいつでも相談してほしいといってくれる。しかし、それでも少女は打ち明ける決心がつかない。

第2話

ドラマ「同性愛の会社員」

主人公の男性はゲイ(男性同性愛者)である。恋人の男性がいる。ある日、ちょっとしたアクシデントがきっかけで、ゲイであることを同僚に気づかれてしまう。主人公は噂が広がるのを恐れて仕事も手につかなくなる。そんな中、信頼できる上司から悩みがあるならば打ち明けてくれといわれる。それを信じて打ち明けると、上司は理解を示し、今後も支えていくことを主人公に伝える。

○ま と め

利用者懇談会の場を借りて、人権啓発推進ビデオを上映した。多くの参加者が性的マイノリティについて知ることができて有意義だと話していた。用語が聞き慣れないものがあって、若干わかりにくいところがあるが、一定の成果を得ることができたと思う。

パステル画の入り口

＜東北コミュニティセンター＞

- 開設の趣旨 初心者を対象にパステル画の基本を学ぶ。
- 期 間 平成28年5月20日・27日の金曜日 (計2回)
- 時 間 午前10時～正午 (計4時間)
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・16人
- 参加者 15人 参加延べ人数 27人
- 講師 絵画サークル講師 南澤順三
- 保育 希望者なし
- 事業内容 初心者を対象にパステル画の基本を学び、静物や花を描く。

回	月 日	内 容
1	5月20日(金)	静物画(花瓶)を描く
2	5月27日(金)	静物画(生花)を描く

○ま と め

講師は講座前から、展示したパステルやパステル画の見本について、受講生に丁寧に説明したり、質問に答えたりして和やかな雰囲気醸し出し、それがパステルでの描画への関心を高めていた。

講座前にかなり説明が進んだため、1日目は講師提供の葉書大の紙に花瓶をいきなり描き始めた。制作、描画のポイントの説明が先にあるとよかったが、受講者は各々工夫し、楽しみながら描いていた。初日は慣れないので葉書大の用紙が適当であった。2回目はパステル画の技法や構図の取り方を解説してもらった後、生花を描いた。静寂の中で集中して取り組む充実した時間を過ごすことができた。2回とも力作が完成し、受講者はとても満足した様子で、それはアンケートにも表れていた。

15人で開講したが、講座後、講師より指導上の適正人数は10人程度がよかったとの感想が述べられた。

保育付き講座にしたが、希望者はいなかった。

異文化理解講座

＜東北コミュニティセンター＞

○開設の趣旨 JICAシニア海外ボランティア・青年海外協力隊員の活動を通して、各国の文化や日本との違いを知り、異文化への理解を深める機会とする。

○期 間 平成29年1月20日～2月3日の毎週金曜日（計3回）

○時 間 1回目 午前10時～正午
2～3回目 午後1時30分～3時30分（計6時間）

○対象・定員 市内在住又は在勤の方・25人

○参加者 21人 参加延べ人数 39人

○事業内容

回	月 日	内 容	講 師
1	1月20日（金）	モロッコ	元 JICA シニア海外ボランティア 高橋利恵子
2	1月27日（金）	シリア	元 JICA 青年海外協力隊員 和気 尚美
3	2月 3日（金）	パラグアイ	元 JICA シニア海外ボランティア 深澤 勝良

○ま と め

本講座は定員には達しなかったが、連日応募があり、男性の割合が多かった。

各回の講師には、自身のJICAでの活動を基に、各国の風俗、習慣を映像や実物をふんだんに使って紹介してもらえた。

1回目は、クイズ形式の設問を考える事で受講者を引きつけていた。J：COMの取材があり、当日放送された。2回目は、開講直前まで戦闘状態で入国できない国だったので関心が高く、若い元隊員の精力的な活動に感銘を受ける受講者が多かった。3回目は、市場調査に基づく商品製造、販売促進活動が経済に貢献したこと、一部の先住民が国の礎となった歴史など興味深かった。

全体的に、宗教や気候によって制約があっても、それらを活かした生活が各国の文化を形成し、政治、経済、民族、歴史の実情によっても国情が変わってくる事が分かり、異文化に触れ、理解する機会を提供することができた。受講者へのアンケート結果も好評だった。

タイ式ヨガでリフレッシュ

〈東北コミュニティセンター〉

○開設の趣旨 タイ式ヨガの基礎を体験し、心身共に元気になり、明日への活力につなげる。

○期間 平成28年5月31日～6月14日までの毎週火曜日 (計3回)

○時間 午後10時～正午 (計6時間)

○対象・定員 市内在住又は在勤の方・30人

○参加者 30人 参加延べ人数79人

○保育 1人(男1人 女0人)

○講師 日本ルーシーダットン普及連盟認定インストラクター 高橋優子

○事業内容 ヨガを通して身体も気持ちも元気になる機会を提供する。

回	月 日	内 容
1	5月31日(火)	前半ストレッチで十分に身体をほぐした後に、後半、タイ式ヨガの呼吸法と動きを行った。
2	6月7日(火)	それぞれのポーズに名前があり、その説明をしてもらった。肩こりや腰痛、骨盤矯正に効果のある動きを行った。鼻から息を十分吸って、ゆっくり息を吐きながら動くことで、心も身体もリラックスできた。音楽と鐘の音も心地よかった。
3	6月14日(火)	

○ま と め

申込み開始と同時に電話が殺到し、30分で定員になったため、多くの人を断らなければならなかった。

参加者の年齢は20～80代まで幅広かった。若年層の参加が多いせいか、この講座を知った情報源は、「広報にいざ」の外に「友人、知人から」の割合が多かった。

講師は毎回動かす場所や改善する症状などテーマを決めて臨んでいて、身体の各部を万遍なく動かす事ができていた。タイ式ヨガは、インド式と呼吸法が逆とのことだ。また動きによって、一時止めた血流を一気に流して症状改善やリラックス効果を生む特徴もあるが、タイ式マッサージがそれを受動的に行うのに対して、能動的に行うのがタイ式ヨガとのことだ。

受講者は気持ちよさそうに取り組んでいてリラックスしきっていた。アンケートの結果でも、全員がとても満足した、もっと続けてほしいという声が多かった。

芸術鑑賞講座 ～南国の風運ぶ ウクレレと沖縄三線～

〈東北コミュニティセンター〉

- 開設の趣旨 楽器の仕組みや成り立ちを通して、楽器を生み、育んだ文化に触れるとともに、演奏を鑑賞し教養を高める機会とする。
- 期 間 ①平成28年11月11日(金)②平成28年11月25日(金)
- 時 間 ①午前10時～11時50分 ②午前10時～正午
(計3時間50分)
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・30人
- 参加者 31人 参加延べ人数35人
- 講師 ①日本ハワイアン音楽協会会員 小林光夫
ウクレレ教室講師 鈴木みゆき
②三線三味線教室講師 絵美こさめ
- 事業内容 南国発祥の小振りな弦楽器の演奏を鑑賞し、仕組みや成り立ちの解説を通して南国の文化や音楽に触れる。
- まとめ

広報11月号掲載、ちらし配布は9月下旬より開始。受付開始からコンスタントに応募があったが、定員に達したのは2回目開講の前だった。中旬開始の講座は、前の月の広報に載せて募集を始めた方がよい。また2回連続講座ではあるが、一方のみの参加希望も何人かいた。余裕のある受付期間の中で連続講座の意義を伝えながら受付に当たれると良い。

1回目の講師は、開講に向けての条件について何度も来館し希望を伝えてきたが、当日はハワイでの誕生の歴史から、日本での普及とスターの活躍の解説を交えて、ラテン、日本の懐かしい歌曲、ロシア民謡、ハワイアンと幅広いレパートリーでプログラムにない曲も含めて2時間近く演奏し、受講者を楽しませた。

2回目は、沖縄言葉の母音の違い(アイウエオがアイウイエに変化)と歌詞の解説、三線やバチの材質(蛇皮、水牛の角)の説明、独特の縦書き楽譜「エエ四一(くんくんし一)」と、三本の弦を押さえる位置を視覚的に表した「タブ譜」の見学は、沖縄や三線を知る上で役に立った。演奏体験では受講者は意外と大きな音が出る事に驚いていた。質問も活発に出て、三線への関心の高さがうかがえた。知っている曲は全員で歌って盛り上がり、和気あいあいとした雰囲気になった。

オペラへの誘い ～ピアノと歌による音楽鑑賞会～

〈東北コミュニティセンター〉

- 開設の趣旨 オペラのアリアや歌曲を解説付きの生演奏で鑑賞し、オペラや歌曲の見方を知り、楽しむ機会とする。
- 期 間 平成28年10月29日(土)
- 時 間 午後2時～4時(計2時間)
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・90人
- 参加者 81人
- 講師 声楽家・花本伊万里(ソプラノ)、石川和樹(テノール)
ピアニスト・石河内愛
- 事業内容 衣装を着けた演奏家による生演奏や、DVDでのオペラを解説付きで鑑賞し、オペラや歌曲の見方や楽しみ方を知る。
- まとめ

事業計画では、3回連続の「芸術鑑賞講座」として位置づけられていたが、音量などを考慮するとホール使用のコンサート形式になる事から、100名近い応募者を3回連続で得る難しさや、ホールや控室の部屋を連続して確保することは、利用団体の活動に制約を与えることも考えられるため、単独講座として実施した。

講師は、機会があると学校などで衣装を着けて解説付きで公演をしている。公演1か月前から講師の一人の体調が心配されたが、身体に負担のない選曲をして問題なく当日に臨んでもらえた。

演奏はイタリア、ドイツの歌曲を始め、オペラのアリアや重唱をピアノ伴奏に乗せて、ソプラノ、テノールの響きをたっぷりと聴かせてもらえた。本格的な舞台衣装を身にまとった演奏は、雰囲気盛り上げていた。またメトロポリタン歌劇場で上映されたオペラ「蝶々夫人」のDVDを解説付きで鑑賞した。

全体を通して、歌の背景や作曲家の解説が歌曲やオペラへの理解を深め、楽しむことに役立っていた。

終演後、参加者からよい企画に感謝する声が寄せられた。またいつも以上に丁寧に挨拶をして感動を伝えてくる参加者も多かった。生演奏のよさや迫力が味わえる講座であった。

東北コミセン ニューイヤーコンサート

＜東北コミュニティセンター＞

○開設の趣旨 日頃身近で聴くことのないバイオリン演奏をピアノ伴奏で地域に提供するとともに、新座市から海外留学した若い演奏者の活躍を、演奏を通して紹介する。

- 期 間 平成29年1月28日（土）
- 時 間 午後2時～3時30分（計1.5時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・100人
- 参加者 86人



○事業内容 ベートーベンやブラームスなどのクラシックの名曲を中心に、バイオリンソロとピアノでの演奏会を実施し、音楽への造詣を深める。

○演奏者 ヴァイオリニスト 大塚 野乃子
ピアニスト 米根 弥恵

○ま と め

毎年年末に実施するコンサートを今回は新年に実施した。出演者の選定に時間を要したためである。今までに、ヴァイオリンの演奏を実施したことがなく、また同楽器はクラシックを代表するものであるから是非実施したいと考えていた。

中央公民館で依頼したことがある講師に打診したところ、快く引き受けてくれ、盟友のピアニストとの合奏という形になった。ブラームスのハンガリー舞曲をリクエストした。オーケストラではなく、ヴァイオリンだけで弾くと、相当難度が高いそうである。この曲以外の選曲は講師に任せた。テンポの良い軽やかな曲が多く、あっという間に演奏の時間が過ぎていった。

コンサート直前に講師からピアノ調律の要望があり、当館の定期調律と時期が重なったので、その調律をコンサートの5日前に実施し、良いコンディションで臨んだ。ヴァイオリニストはウィーンに留学した経験を持ち、貴重な演奏を市民に提供することができた。

外国人のための日本語教室

＜東北コミュニティセンター＞

○開設の趣旨 日本語を母国語としない人を対象に、日本語の学習と地域社会での生活の円滑化を支援する。

○期 間 平成28年4月3日から平成29年3月26日までの毎週日曜日 計44回

○時 間 午後6時30分～8時 (計66時間)

○対象・定員 日本語を母国語としない外国人 ・65人

○参加者 65人 参加延べ人数 687人

○事業内容 日本語の学習、指導及び生活の円滑化について参加者へ支援を行う。

○ま と め

平成20年度から新座日本語の会と共催で始め、今年度で8年目となる。学習者の国別では中国とベトナムが圧倒的に多く、ベトナムは圧倒的に男性が多い。他には韓国、モンゴル、フィリピン、インドネシア、ナイジェリア、パキスタン、ニュージーランド、台湾、など多くの国、地域から参加している。

夜間講座なので連続しての出席はなかなか難しいようである。入門レベルの受講生がほとんどで、日本語のみならず、日本の文化についての紹介もしている。本市及び近隣地域において今では日本語を学ぶのに不可欠な存在となっている。

イキイキ実年学級

〈東北コミュニティセンター〉

○開設の趣旨 知識を高め、健康で楽しい生活が送れるよう、地域の高齢者の仲間づくりを後押しする。

○期 間 平成28年6月3日～24日までの毎週金曜日 (計4回)

○時 間 1回目 午後1時30分～午後3時30分

2・3回目 午前10時～正午

4回目(館外学習) 午前8時30分～午後5時

(計14.5時間)

○対象・定員 市内在住又は在勤の60歳以上の方・25人

○参加者 25人 参加延べ人数92人

○事業内容

回	月 日	テ ー マ	講 師
1	6月 3日(金)	アコーディオンと合唱	アコーディオン奏者 三上 郁
2	6月10日(金)	世界遺産を知ろう	トラベルライター 大和田 聡子
3	6月17日(金)	相撲の基礎知識	日本相撲協会相撲博物館学芸員 中村 史彦
4	6月24日(金)	国立歴史民俗資料館(佐倉市)	東北コミセン職員同行

○ま と め

毎年、人気ある高齢者学級である。

第1回目はアコーディオン奏者を招き、演奏鑑賞と合唱をした。アコーディオンの歴史と楽器の構造についても説明があった。想像する以上の音の迫力に感嘆の声が上がった。

2回目は世界遺産の紹介を行った。なかなか行けない世界遺産を2時間で旅してしまおうという趣向である。講師が詳細なレジュメと、パワーポイントで世界遺産の中でも人気のある所を紹介した。また、世界遺産指定とはどういう目的があるのかという説明もあった。

3回目は決まりごとを中心に伝統文化としての相撲について、相撲博物館学芸員を招き学んだ。

4回目は館外学習である。千葉県佐倉市にある国立歴史民俗博物館を訪れた。館内は時代別に日本人の生活や世相等についての展示がされていて、見学後、皆満足した様子であった。